



発行所 秋田魁新報社
秋田市山王臨海町1番1号
〒010-8601
©秋田魁新報社 2009年

号外

購読申し込み

0120-13-1231

ホームページ

www.sakigake.jp

携帯サイト

mobile.sakigake.jp



詳しくは「秋田魁新報」本紙、当社ホームページをご覧ください。

尼崎脱線事故 業過致死傷罪で

107人が死亡した2005年4月の尼崎JR脱線事故で、神戸地検は8日、業務上過失致死傷罪でJR西日本の山崎正夫社長(66)を在宅起訴した。山崎社長は、現場が急カーブ



JR西日本の山崎正夫社長

に付け替えられた1996年、常務取締役鉄道本部長で安全対策の最高責任者だった。地検は、自動列車停止装置(AT S)があれば事故を防げたのに、設置を怠ったと判断した。一方、同容疑で書類送検された高見隆二郎運転士(当時23)を被疑者死亡で、安全対策や運行管理の元担当幹部8人と、遺族から告訴

されていた井手正敬氏(74)ら旧経営陣3人はいずれも嫌疑不十分で不起訴にした。4年余りに及んだ捜査は、現職社長の立件という、鉄道事故としては極めて異

例の結論に至った。山崎社長の進退問題に発展するのは必至だ。地検によると、山崎社長はこれまでの事情聴取に「事故は予測できなかった」と話している。

尼崎JR脱線事故 2005年4月25日午前9時18分ごろ、兵庫県尼崎市のJR福知山線カーブで快速電車が脱線しマンシヨンに衝突。乗客106人と運転士が死亡、562人が重軽傷を負った。直前の駅でオーバーランした運転士が懲罰的な「日勤教育」を恐れ、車掌の無線連絡に気を取られてブレ

ーキが遅れたのが原因とされる。カーブには自動列車停止装置(AT S)がなかった。兵庫県警は08年9月、カーブ設置時に安全対策責任者だった山崎正夫(やまさき・まさお)JR西日本社長らを業務上過失致死傷容疑で書類送検した。